



Flash News

三重大学

第51号

目次

- 文部科学省の平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択
- 「教育研究組織に関する講演会」・「三重大学・和歌山大学連携協議会」を開催
- 特色GP「海外医学部と連携した臨床医学教育」の「海外臨床実習報告会」
- ISO14001認証取得の第1段階審査を受ける
- 県立津高等学校国際交流部と外国人留学生との懇談会
- 国際交流センター交流会
- イスラエル大使が来学
- 外国人留学生会館防火訓練実施
- 三重大留学生在母語による学習支援を実施
- 第2回ボランティア日本語教師養成講座『実践：日本語教育』
- 「2007年度サマースクール」を開催
- 附属中学校音楽部が天津師範大学を訪問

- 「レゴロボット競技会2007」を開催
- オープンキャンパスを開催
- がん治療や研究のための寄附へ感謝状贈呈式
- 「子ども科学教室」を開催
- 附属小学校音楽クラブ全国大会出場！一心がつながる歌をめざして
- 「みえメディカルパレフォーラム2007」を開催
- 「三重大学四日市フロント」が移転
- 「イノベーションジャパン2007-大学見本市」
- 「黒潮文化圏4大学連携防災セミナー」
- 「みえアカデミックセミナー2007」を開催
- 学長補佐就任挨拶

お知らせ & ご報告

- 附属図書館から
- 広報チームから

文部科学省の平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択

文部科学省が公募した標記プランに、本学が京都大学、滋賀医科大学、大阪医科大学と共同で申請した医学系研究科のプログラム「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」が採択されました。これは、文部科学省が大学院課程において質の高いがん専門医等を養成し得る優れたプログラムに対して財政支援を行うもので、平成19年度から新規に設けられました。同プログラムは、各大学が蓄積するがん研究の基盤をさらに発展させながら、特に集学的医療を担うがんセンター等における教育基盤を強化・整備し、がんのチーム医療を理解し、実践できるがん専門職育成を目指す教育プログラムで、がん専門医師養成コース、がん専門看護師コース、がん専門薬剤師コースなどがあります。

「教育研究組織に関する講演会」・「三重大学・和歌山大学連携協議会」を開催



小田 章
和歌山大学長

9月3日、メディアホールにおいて、小田 章和歌山大学長による「新学部設置に関する光と影」と題した標記講演会が開催されました。講演は、和歌山大学の観光学部設置に向けた取組みなど、本学の教育研究組織の見直しの方向性を考える上で非常に参考となりました。引き続き、和歌山大学との連携協議会（平成16年11月に締結した本学と和歌山大学との包括的連携に関する協定に基づき設置）が学長室において開催されました。今回は、「今後の連携について」と題して、「防災関係共同研究」「紀伊半島の総合研究」「東紀州サテライトと紀南サテライトとの連携」等の連携事業や、「入試問題の共同作成」「動物実験の審査協力」等の大枠について、積極的な意見交換が行われました。今後、連携の細部について、担当理事、関係教員らでさらに検討していくこととなっています。

特色GP「海外医学部と連携した臨床医学教育」の「海外臨床実習報告会」

9月7日、標記報告会が医学部臨床講義棟で開催されました。これは、平成18年度に採択された特色GP「海外医学部と連携した臨床医学教育」の活動として、第6学年を対象に6カ国11大学（タンザニア・ムヒンビリ大学、ザンビア大学、タイ・コンケン大学、上海交通大学、カリフォルニア大学、香港中文大学、ウェイン州立大学、ワシントン大学、ジョンズホプキンス大学、エール大学、シドニー大学）で大規模に行われた海外臨床実習です。参加した46名の学生からは、「多くを学び、見聞を広げ、また、日本の医療や三重大学の医学教育を外から再認識する機会となった」との報告がありました。関連行事として、10月20日には、海外の協定大学関係者を招待した「国際臨床教育フォーラム」を開催します。

ISO14001認証取得の第1段階審査を受ける

9月25～26日の両日、登録審査機関であるBSIジャパン（株）から2名の審査員が来学し、本学の環境マネジメントシステム（EMS）について第1段階審査を受けました。審査内容は、環境関連施設（ゴミ置き場、焼却場、排水処理施設、PCB保管場所等）の管理状況やEMSの構築状況についての環境ISO推進室の審査の他、各部門（教育学部、医学部、工学部、総務部）でのEMS運用状況の審査というものでした。その結果、適切なマネジメント実施が認められ、第2段階審査（10月24～25日）に進む予定です。

県立津高等学校国際交流部と外国人留学生との懇談会

7月20日、津高等学校国際交流部の生徒6名が、課外活動の一環として本学外国人留学生会館を訪問されました。目的は、英会話を実際に体験し、様々な国の文化に触れるためです。生徒らは、当館に入居している外国人留学生者8名と、英語による自己紹介を交えながら、趣味・日本ででの生活などについて気軽に話し合い、楽しいひとときを過ごしました。

国際交流センター交流会

7月23日、国際交流センター演習室とメディアホールにおいて、本学生物資源学部卒業後、英国留学を経て青年海外協力隊員としてシリアに2年間滞在した田村雅文氏の報告会および国際交流センター交流会が開催されました。本学の留学生・その指導教員他、外国語の習得や国際教育などに興味がある日本人学生など約60名の参加がありました。交流会では、留学生が母語による歌を披露するなどし、大いに盛り上がりました。

イスラエル大使が来学

8月2日、エリ・エリアフ・コーヘン駐日イスラエル大使他3名が本学を訪問され、小林理事および中川学長補佐とイスラエルの教育や文化について懇談されました。日本語が堪能かつ空手の黒帯五段の腕前で、親日家として知られるコーヘン大使は、その後、少林寺拳法部を訪れ、自ら型の披露や部員と組み手を行うなど楽しいひとときを過ごされました。



外国人留学生会館防火訓練実施

8月3日、外国人留学生会館において防火訓練を実施しました。今回は、天候の都合で消火訓練は行われませんでした。各室から避難場所である留学生会館前広場までの避難訓練ならびに消火器の使用法・手順についての説明を行いました。参加した18名の留学生は、テキパキと避難するとともに消火器の使用法・手順の説明に聞き入っていました。

三重大留学生在母語による学習支援を実施

8月22～23日、鈴鹿市立桜島小学校および松阪市第二隣保館において、本学留学生が、母語による学習支援「実践：日本語教育Ⅱ」（企画・運営：福岡昌子准教授・国際交流センター）を行いました。この取組みは、留学生が地域に貢献できる機会にと本学国際交流基金の助成を受けて行ったもので、留学生とのふれ合いを通して、児童に将来の自分を考える一つの機会となってほしいという願いが込められています。留学生は集まった外国籍の子供たちに、母語（ポルトガル、スペイン、中国、タガログ）で夏休みの宿題を教えたり、進路相談を行いました。また、大学の研究紹介や出身国の歌や遊びを楽しむなど、参加した50名近くの子供たちは、留学生と楽しく一日を過ごしました。



第2回ボランティア日本語教師養成講座『実践：日本語教育』



9月1日、メディアホールにおいて、国際交流センター（企画・運営：福岡昌子准教授）主催で、標記講座が本学国際交流基金の助成を受けて行われ、77名の日本語教育関係者が参加しました。午前中は本学や鈴鹿国際大学の留学生、松阪市教育委員会母語スタッフの方など4名の学習者が「日本語会話における上級話者へのアプローチ」を語りました。午後は、早稲田大学日本語研究教育センターの川口義一教授を招き、本学の留学生8名を対象に日本語教育の伝統的教授法によるモデル授業および講演が行われました。「日本語の会話指導にすぐに応用できる『日本語指導の秘訣』を学ぶことができた」と参加したボランティア日本語教師、日本語教育関係者から好評でした。

「2007年度サマースクール」を開催

8月27日～9月14日の3週間、国際交流センター主催の標記スクールが開催されました。受講者は、ドイツからハイデルベルグ大学を始め3大学の学生9名、中国から江蘇大学および広西大学の学生6名の計15名が参加しました。期間中、受講生たちは、三重県内各地にホームステイをしながら、午前中は国際交流センターで日本語の授業を受け、午後からは研修等（茶道体験、考古学発掘現場調査、工場や美術館見学、南ヶ丘小学校訪問等）に参加し、余暇は日本人学生やホストファミリーとの交流を深めました。なお、最終日には修了式が行われ、受講者全員に修了証書が授与されました。



附属中学校音楽部が天津師範大学を訪問

7月30日から3日間、附属中学校音楽部の生徒2・3年生34名と11名の教員らが、姉妹校の提携を交わしている天津師範大学附属中学校（中国）を訪問しました。生徒達は、交流会や、国際ジョイントコンサートなど全国大会やNHK音楽コンクールで数々の賞を受賞している歌声や舞踊を通して、国際理解を深めるとともに文化交流を行いました。

「レゴロボット競技会2007」を開催



8月2日、工学部物理工学科の学生らにより、工夫を凝らして製作したレゴロボットの性能を競う標記競技会が開催されました。物理工学科では、実体験の少ない新入生に、ものづくりの面白さと難しさを体験してもらうため、レゴロボット製作実習を初期教育として取り入れ、その成果を確認するために毎年レゴロボット競技会を開催しています。今年の競技会の課題は、競技場内の障害物乗り越えて相手側陣地にボールを何個運べるかというもので、6月から新入生43名がレゴロボットの製作に精力的に取り組みました。競技会は16チームに分かれて行われ、熱戦の末「梅酒サワー」チームのレゴロボット「HSTS」が優勝しました。県内の高校生も見学を訪れ、会場は大きな歓声に包まれていました。

オープンキャンパスを開催

8月3日～10日まで、オープンキャンパスが開催されました。高校生を始め保護者の皆様に、本学の自然あふれるキャンパスのありのままの姿を見ていただくこと、学部紹介や入試説明の他、研究室見学、体験授業、模擬裁判の実施など趣向を凝らした様々な企画が学部ごとに用意されました。一部の学部で台風5号の影響が心配されましたが、来場者数は昨年を大幅に超え、合わせて約4,000名の方が参加され、特に医学部では、昨年の2倍以上に達するほどの人気でした。全国的な医師不足の問題を踏まえ、医師確保対策の一環として初めて三重県医療政策室がオープンキャンパスに加わり、県の医師修学資金貸与制度、へき地医療の魅力などを紹介しました。医学部では、来年度入試で地域枠定員を増やす予定で、将来の医師の卵に地元の大分大学に勤務していただけるよう訴えました。

がん治療や研究のための寄附へ感謝状贈呈式

8月16日、附属病院では、川喜田 淑様から100万円のご寄附を受け、そのご厚志に対して感謝状贈呈式を挙行了しました。これは、本年6月に亡くなられたご主人（川喜田貞久・(株)百五銀行元頭取）に寄せられたご香典の一部を「がんの治療や研究に役立てていただきたい」と、附属病院の研究資金にご寄附されたものです。感謝状贈呈式では、内田附属病院長から川喜田様に感謝状が手渡され、「がん医療の進展のために励み、格別なご芳志に応えられるよう努めて参ります」と感謝の言葉とともに決意を表明しました。

「子ども科学教室」を開催

8月26～27日、教育学部で津市内の小学校5、6年生を対象とした「子ども科学教室」を開催しました。これは、教員養成系の学生が教育実践力をつける上での一つの機会となるように設けられている「フレンドシップ事業」（担当：後藤太郎教授他）として実施しているもので、本年度は第6回目となります。参加生徒数は64名で、指導に当たった教育学部理科教育コースの1・2年生38名は、物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて実験を企画し、子どもとのふれ合いによって、教員になるための意識向上と課題を持つ大切な機会となりました。



附属小学校音楽クラブ全国大会出場！ 一心がつながる歌をめざして

附属小学校音楽クラブは、第74回NHK学校音楽コンクール東海北陸大会で金賞を受賞し、10月7日の午後2時から、NHKホールより生中継される全国大会に出場することになりました。三重県の学校からの出場は戦後初めてのことで、9月4日、音楽クラブを代表して2名の児童と担当教諭が教育学部長室を訪れ、「附属小学校では、子ども一人ひとりがつながって歌うことを大切にしており、また音楽ばかりでなく、つながることは教育活動全体のテーマでもあります。全国大会という大舞台で、精一杯、心がつながる歌を響かせてきます」と決意を語られました。ぜひ、皆様のご声援をお願いします。



「みえメディカルバレーフォーラム2007」を開催

9月4日、標記フォーラムがホテルグリーンパーク津において開催されました。約200名が参加するなか、野呂昭彦三重県知事、豊田長康学長、辻信一中部経済産業局部長による開会挨拶に続き、はままつ産業創造センター・ビジネスコーディネーターの小出宗昭氏により「ネットワークから生まれる新商品!! 新事業!!」と題した基調講演が行われました。続いて、奥村克純理事を座長とし、パネルディスカッション「産学官連携による地方の将来像～新しい拠点づくり～」が行われ、熱心に討論されました。



「三重大学四日市フロント」が移転

平成15年10月に、本学の社会貢献の拠点として設立された「三重大学四日市フロント」が、このたび「じばさん三重」の3階から4階へと移転しました。9月10日、豊田学長と奥村理事が訪問し、同フロントのさらなる活躍に向けて激励されました。スタッフ数も、コーディネーターに加え、渡邊、加藤両特命学長補佐が着任されたことにより8名になりました。今後、四日市を始めとする地方自治体との連携を進め、研究助成金の獲得、市民との交流、地元中小企業やコンビナート企業との産学連携等に広く取り組んでいく体制が整いました。



「イノベーションジャパン2007 -大学見本市-」

9月12～14日、標記見本市が、(独)科学技術振興機構(JST)、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の主催(共催:文部科学省、経済産業省、内閣府、日経BP社)により東京国際フォーラムで行われました。本学からは、「光センシングを用いたフィールドにおける環境計測」(亀岡孝治教授・生物資源学研究所)、「電気的等価モデルを用いた燃料電池模擬装置の開発」(山村直紀講師・工学研究科)、「超音波RF信号を用いた心臓の筋肉組織の診断支援システム」(鶴岡信治教授・工学研究科)、「ヒトの痒みを定量化する装置の開発」(野呂雄一准教授・工学研究科)、「2007年問題を解消! ノウハウ継承・人材教育を支援する技術」(榊井文人助教・工学研究科)、「未公開特許リスト等」(知的財産統括室)の6ブースを出展しました。当日は、これらのブースに民間企業等多くの方が訪れ、研究に関する相談や質問を多数受けました。

「黒潮文化圏4大学連携防災セミナー」

9月19日、三重大学、和歌山大学、徳島大学および高知大学の防災関連の教員が和歌山大学地域共同研究センターに一堂に会し、黒潮文化圏4大学連携防災セミナーが開催されました。本学からは、災害対策プロジェクト室の川口准教授・工学研究科が参加し、2003年度以降三重大学が取組んできた防災に関わる教育・研究・社会連携事業について紹介しました。セミナーの後、4大学の教員が今後の防災関連事業における連携の可能性について話し合い、今後もセミナーなどを通じて継続的に情報交換などを進めていく事などを確認しました。

「みえアカデミックセミナー2007」を開催

7月16日、標記公開講座が、「ココロほのめかす"あなた"とは」をテーマに、石阪督規准教授・人文学部、中西良文准教授・教育学部を講師として三重県生涯学習センターにおいて開催されました。また9月22日には、御浜町役場「くろしおホール」において、同移動講座が開催されました。今年の移動講座は、「町おこし」をキーワードとしたもので、大原興太郎教授・生物資源学研究所が「21世紀農業農村の方向性～地域活性化の考え方～」をテーマに講演しました。両セミナーとも多数ご参加いただき、講演後の質疑応答では活発な意見交換が行われました。

学長補佐就任挨拶

「法人評価(教育)に関わる自己評価書作成業務の補助」という職務で評価書作成のお手伝いをする事になりました。平成20年に予定されている国立大学法人評価の認証は、本学にとって当面の最も重要な課題の一つです。微力ではございますが、教育関係の法人評価書作成に関わる裏方として全力を尽くす所存です。事務的な面を含め各部局の皆様にはいろいろとご協力をいただくことになるかと存じます。よろしくお願い申し上げます。



水谷一樹学長補佐

お知らせ&ご報告

附属図書館から 《「レクチャーコンサート」(オペラ400年の歴史をたどる)》開催》

10月6日(土)午後(14:00開演)、新国立劇場オペラ研修所所長の海老澤 敏氏らを招いて標記コンサートが三翠ホール(小ホール)で開催されます。詳しくは、<http://www.lib.mie-u.ac.jp/exhibition/opera/>をご覧ください。

広報チームから

《教員紹介ページを新システムに移行》

7月30日より、教員紹介ページを教育活動データベースに入力データを共有させた新システムに移行しました。教員の皆様は、常に最新情報が反映されているか、ご確認願います。

《「Campus CUBE」放送始まる!》

10月5日(金)から「レディオキューブFM三重」で学生による番組が放送されることになりました。この企画は、本学と皇學館大学、鈴鹿国際大学との共同で制作するもので、学生の視点から、各大学の取り組みや活動を広く県民の皆様にお伝えする番組となります。ぜひお聴きください。放送は、毎週金曜日20:30～20:55 詳しくは、<http://www.fmmie.jp/>をご覧ください。

お悔やみ

平成19年8月9日、学長補佐(教育学部教授)の廣岡秀一氏がご逝去されました。心から哀悼の意を表すとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

小林英雄(kobayashi@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

